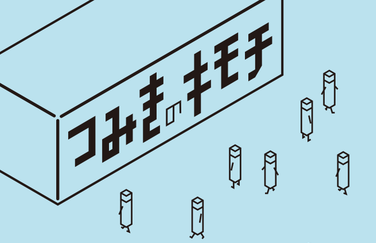


2021.8.2
vol. 15

特集
tsumiki交流会
利府を観る、知る、
そしてみんなで語らう

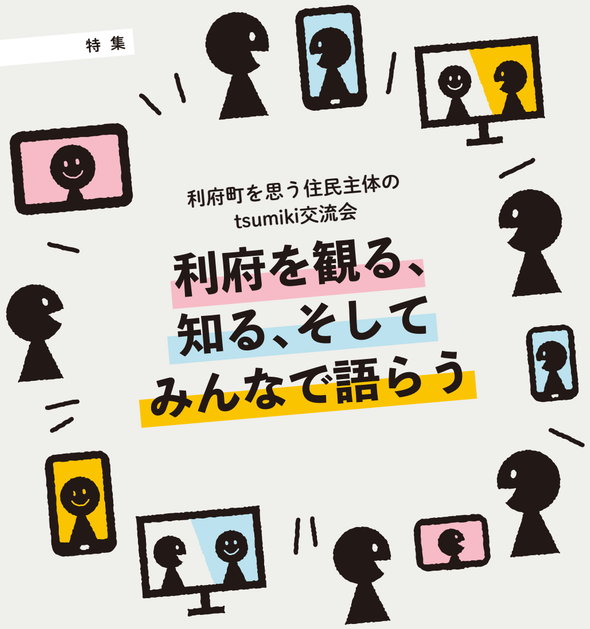
十符の里びと15人目
演出・脚本家
伊澤美樹さん

TOPIC
フードドライブ
「みんなのマルシェ」

利府駅前tsumikiから
まち・ひと・しごとを発信

tsumiki
利府町まち・ひと・しごと創造ステーション

特集



利府町を思う住民主体の
tsumiki交流会

利府を観る、知る、そしてみんなで語らう

「利府の先輩たちが培ってきた地場産業を、若い世代につなぎたい」と、町内で事業を営む３人の経営者が発案者となって、まちの歴史・文化、生業を通して町を活気づけるため、人々がつながり語らう場をつくりました。交流会は2021年1月～3月全3回開催され、町内外からオンライン参加も合わせて、のべ76名が集いました。話題を提供した3人のプレゼンテーションの様子を参加者の声も交えてご紹介します。

文 五十嵐千晶

参加者の声

夏の海で冒険マリンアトラクション、無人島ではキャンプ、サバイバル体験など、大人も子どもも一緒になって楽しいことがたくさん実践できそうです。全国や東北各地に向けて、夏休み旅行ツアーの定番地としてPRしたいです。（40代男性）

利府に住んでいて、子育て支援がすごく行き届いていると思っていました。阿久玉姫のお話を聞いて、利府町には歴史的にも「子どもを大事にしようという思いが受け継がれていたんだなぁ」と、あらためて感じました。（30代女性）

陸前浜田の海はきれいで、ほんとうにいいなと思っています。海の駅のような場所を作って、町をさらに活性化したい。利府に海があることを知らない人もいると思うので、みなさんと一緒に利府全体を若者の力で盛り上げていければと思っています。（10代学生）

海・里山・街と、すべてがそろう利府町。豊かな資源の活用は、個々における点の活動に留まらず、利府町とその周辺地域一体を面と捉え、やがて世界一の観光地にしていくという、壮大ではあるけれど、利府町民なら実現できそうな希望が持てる構想へと大きく膨らみました。今後も利府町に住まう人、関わる人など、多方面で活躍する方々とともに交流の場を開いていきますのでご注目ください。

1 表松島利府町浜田・須賀 未来の観光

民宿ハーバーハウスかなめ
主人 櫻井 保 さん

松島湾体験観光の仕掛け人
須賀で伝統漁法を守る漁師

利府の海“ハマスカ”のポテンシャルは高い！

浜田・須賀地区は、松島湾の南西部に位置し、仙台方面から向かうと最初に松島の風景が見える場所であることから「表松島」とも呼ばれています。
櫻井家は、代々人をもてなし楽しませることが好きな一族で、祖父の代から漁業を続けながら、体験漁や島巡りなどの観光にも力を入れてきました。その評判はクチコミで広がり、遠方からも多くの方々が訪れるようになりました。県外のお客様からの要望もあって、29年前に民宿も開業しました。
須賀地区は、かつては海苔養殖が盛んで、海苔を天日干しする光景が地区内のあちこちで見られました。現在、養殖業の主流はわかめです。須賀の湾内特有の穏やかな波で育つわかめは、葉肉のやわらかさが売り。また、わかめ産地の中で最も早い収穫時期を迎えるため、全国に先がけて12月には「わかめしゃぶしゃぶ」が楽しめます。
観光は、釣り船漁、伝統漁法体験漁、島巡り、マリンスポーツなどいろいろな種類の楽しみ方があります。最大の魅力は、なんといっても昔から変わらぬ景観です。島の岩肌や松の木1本1本が、時間帯や天候によって様々な表情を見せてくれます。朝焼けや夕焼けはまさに絶景です。
また、松島湾の穏やかな海だからこそ、筏の上で食事や月見に茶会、能舞台や神楽など文化的な楽しみ方もできるのです。このように、表松島には「観る、遊ぶ、獲る、食べる、そして笑う」と、すべての楽しみがそろっています。

世界一楽しい観光地を目指せばよい。

最近は、いろいろな分野の方々とコラボして体験漁×持ち込み企画を行っています。例えば体験漁×陶芸、体験漁×竹ランプづくり、体験漁×スケッチ教室などです。地域を盛り上げたい人がどんどん集まってきておもしろいことを仕掛けているので、ここで生まれたユニークなプランが若者たちの新しい生業を創ることにつながっていけば良いと思っています。
そして、利府町だけでなく周辺地域にも広げ2市3町一体となって盛り上げていけば、この地域が「世界一の観光地」になることも夢ではありません。地域のポテンシャルを知り、皆さんとアイデアを出し合い、おおいに利府町を盛り上げていきたいです。

2 郷土愛の醸成より生まれる温かい地域産業振興

里山旬味うちみ旅館
主人 内海 貴史さん

2018 じゃらん泊まってよかった宿
沢乙温泉湯守 9代目当主

故郷の歴史・文化・風土を知る

沢乙温泉は、開湯してから300年余り。湯治場となったのは安政年間（1855～1860年）、当時蔵王噴火や疫病が蔓延したときには温泉治療の薬湯として使われたと言われ、現代に続いています。
10年ほど前に私が9代目当主となったとき、まずは伝える側が利府の歴史文化風土を深く理解しないことには、お客様に利府の良さは伝わらないと思いました。そこで郷土の菅谷文化財などを探求していると、当時の利府の人たちが温めてきた思いが阿久玉姫伝説の中に込められていることを知りました。菅谷産野原にある子安観音は、利府の子どもたちの健やかな成長を1200年もの間願い見守ってくれている観音様。その奥には阿久玉姫の銅像が祀られています。私なりの解釈ですが、当時の人たちは地域の子どもを小さい時から深く愛することがとっても大事だということを、後世に残したかったのではないかと強く感じています。

町への誇り、慈しみ、感謝

入菅谷源流、森郷から町中に流れる惣の関源流で育てた天日干し米や地場産の野菜。浜田・須賀の海産物、松島湾や仙台湾近郊の魚など、地元生産者から直接仕入れた食材を使い、地域の文化や風土を生かしたおもてなし料理を提供し、故郷の町を語らうきっかけとしています。宿泊されたお客様には、利府らしさを生かした里山歴史散歩も実施していて、関東圏など遠方の方には、「利府の風土は本当にすばらしい」と、とても喜ばれています。
私自身、もっともっと利府を探求し愛することが大切だと思っています。思いやりや温かさの中から郷土愛が育まれ、温かい町になれば移住したいと思う人も増えるのではないでしょうか。子どもたちの心にも郷土愛が育まれれば、いったん都会に出て自分のやりたい勉強や修行をしても、将来的には生まれ育った利府で自分を生かしたい、利府の人たちのために役に立ちたいと思う気持ちが生まれると思います。
町を大切にしたコンテンツをつくりたい、町の風土文化を生かした生業をしたいという人たちが、町の中にたくさん現れてきたら、町はますます魅力的になると思います。自分たちの町を魅力的にすることによって、近隣市町を巻き込んで広域観光圏構想という希望の光も見えてきます。利府を誇りに思い大切に思う気持ちを分かち合いながら、町の発展と繁栄につながればうれしいです。

3 町のみんなでワクワクするコラボプランをつくろう！

稲庭うどん瀧さわ家
店主 瀧澤 崇さん

ミシュランガイド宮城・
2017 ビブグルマン賞
受賞

コトを仕掛けて、思いをカタチにしよう。

2019年度から浜田・須賀地区の住民が集まって「ハマスカ未来会議」を開き、利府の沿岸地域の振興を考えています。たとえば、浜田・須賀の穏やかな海を生かして、SUP（スタンド・パトルボード）などの海のアクティビティの聖地になったらおもしろいと思います。湾内の観光船からでは見ることのできない景色を、SUPをしながら楽しむこともできます。海岸沿いの浜田駅前にはレンタル自転車を配備し、周遊できるようになったら楽しいですね。コロナ禍の中で働きながら休暇を過ごすワーケーションという言葉が注目されています。オンラインワーク可能なリノベーション物件を用意し移住希望者を募るというのも一つの案です。このようにポテンシャルが高いこの地域には、可能性がたくさん眠っています。
皆さんもいろいろなところで様々な活動をしていると思いますが、これからは、点（一人）でやっていく時代ではなく、点を強化し線で結ぶコラボ企画を積極的に推進していくのが良いのではないかと考えています。この地域に人が集まるような魅力的なプランを考えどんどんアピールし、他の地域からも人がくるような仕掛けをつくっていきたいです。

利府を「日本一住みたい町」に。

利府町には大きなショッピング施設もあり、サッカー場やゴルフ場などスポーツ施設もあって、海や里山にも楽しい施設があります。本当にいろいろ良いものがたくさんあり、コンテンツは山のようにある地域です。点を結ぶ線がいっぱいできたら、今度は広域連携です。つまり、線から面の形成です。
「100年後にこうなっていたら、ワクワクしませんか？」ということをたくさん創り出していきたいのです。大変なことかもしれませんが、皆さんのアイデイアは、決して非常識ではなく未常識。未だ常識となっていないだけなのです。利府町には可能性があります。大きなビジネスチャンスもあり、人も金も集まってきます。お金がすべてではないと思いますが、きれいごとを言っても、この地域で仕事や商売ができないと、子どもたちは他の土地へ離れていってしまいます。私たちの未来のその先、次世代の子どもたちのことを考えたとき、「子どもたちがこの地に住みたい、地元で働きたい。そして、やっぱり利府町は最高だよね」と、なったら良いと思います。

利府・海と里山周遊二泊三日コース

利府町のんびりまち歩き

案内人●利府を語らう会のみなさん

tsumiki交流会の語らいの中から生まれた「あったらいいなあ」というプランです。利府町の海と里山を結ぶ至極のまち歩き。美味しいものと見所満載。お気に入りのスポットを巡ってみるのも楽しそうですね。

Day 1

14:00 沢乙温泉

沢乙温泉里山旬味うちみ旅館

阿久玉姫が山菜やせり摘みをした情景を映した庭を通って、お出迎え。阿久玉姫伝説を伝える9代目案内による里山散策は、いにしえの歴史とロマンを実感。

Day 2

8:00 朝食

天日干し米の炊きたてご飯。地場の野菜や海産物で仕立てた味噌汁とおかずは、最高のご馳走。

10:00 新中道

イオンモール新利府

2021年3月にオープンした南館と、7月にリニューアルし再開した北館の2棟からなる東北最大級のショッピングモール、お買い物やランチをどうぞ。

13:00 須賀

民宿ハーバーハウスかなめ

表松島湾は波が穏やかな内湾なので、初心者でも安心してSUP体験ができ、湾内にある大小様々な島めぐりも楽しめる。
筏の上で、陶芸、スケッチ、竹ランプづくりから、お茶会や花見やお月見など伊達な遊びを楽しむのも乙なもの。

19:00 宿泊

夕食は、心づくしのもてなし懐石料理で郷土の味を堪能。露天風呂でゆっくり。

Day 3

8:00 朝食

湾内に釣り船を出し釣り体験やワカメ収穫体験、昔から伝わる伝統漁法も体験もできる。

12:00 浜田

稲庭うどん瀧澤家

稲庭うどんで昼食。
東日本大震災から復興ののろしを上げ、宮城県版ミシュランガイドのビブグルマンに選ばれる人気店に。
民家を再生した和風の店構えですが、店内はジャズが流れるモダンな空間。

19:00 宿泊

新鮮な海の幸をふんだんに使った、夜の宴。

14:30

帰路へ

ＪＲ仙石線陸前浜田駅
⇒仙台駅 直通約35分。

15人目

十符の里びと

-お名前

伊澤美樹さん

-なにをしているひとですか？

利府町民劇団ありのみの演出・脚本家です。

寄り道、迷い道、人生ジグザグ すべての経験は芝居を作るための布石

利府町しらかし台にお住まいの伊澤美樹さんは、2005年、利府町民劇団ありのみに入団しました。住民参加型のすべてが手作りの町民劇団。役者として、年1回開催する劇団の公演を支えてきました。2017年からは、脚本兼演出家として舞台制作の中心を担っています。伊澤さんを魅了している地元での演劇活動について、いろいろお話をお聞きしました。

会場満員の観客と劇団の仲間に支えられ

初めて、町民劇団ありのみの脚本と演出を任せられたのは、「番ケ森物語」でした。「私にできるのだろうか」と不安を抱え、利府町の番ケ森の頂上に登り町内を眺めたとき、新幹線が並ぶ車両基地、高速道路の高架が立体交差する近代的な景色の彼方もこうに、いにしえの人々が暮らす様子がありありと浮かび上がってきたのでした。「番ケ森に暮らす熊と、利府の団地に越してきた青年を軸とした家族の物語を書こう」テーマが決まれば、あとは書くだけです。脚本が出来上がり、稽古が始まりました。「演劇は、皆で一つのことを作り上げていく過程が最高の魅力ですね」と、ありのみでの活動がいかに充実したものであるかがうかがえる一言です。

千秋楽に緞帳が下りて、会場から割れんばかりの拍手が沸き起こったとき、伊澤さんの迷いは吹き飛びました。「これでいいんだ、泣かせて笑わせて、伝えたいことを背伸びしないで表現すればいいんだ」と、「大衆演劇をめざしていこうと確信したんです」。会場に足を運んでくれた、たくさんの観客に後押しされ、進む道が見えた瞬間でした。

芝居づくりは、持てる力を全集中

伊澤さんは、結婚を機に1986年に利府町しらかし台団地に住居を構え、当時はグリム童話など西洋の伝承民話の語り部として、一人で東北各地で活動していました。一方、ありのみは、1997年に旗揚げしてから、毎年町内在住者を中心に劇団員を公募。昔からの住民も、新しく町に転入した人も、小学生からお年寄りまで幅広い世代の町民が参加し演劇活動を行っていました。伊澤さんとありのみを結びつけたのは、同じ団地に住んでいた劇団副団長の石川茂子さんでした。

「そろそろ仲間と一緒に芝居を作るのもいいかな」と思い始めた頃だったので意を決し入団。第9～20回公演までは役者として舞台に立っていましたが、第21回公演からは、高校時代演劇部に所属し脚本を書き続けてきた経験を生かし、脚本・演出を担当することになりました。

利府町在住の劇団員として「子育てや生活をしているから分かる、利府の良いところを住民の目線で描きたい」。伊澤さんの芝居の脚本づくりは、テーマに添った素材を集めることから始まります。「椿屋の女房」を書いた時には、舞台となる大町の通りに沿って玄関のチャイムをピンポン！？「アポなしでお話を聞かせてくださいとお願いするのですから、相手は面食らいますよね。でも、皆さん協力的で貴重なお話をたくさんしてくださいました」。

近隣市町村の民俗資料館にでかけて、書物や資料を探すこともします。とくに、青麻神社には膨大な郷土史に関する書物資料が集められていてとても重宝したといいます。役者が発する言葉を丁寧に紡ぐように、台本づくりに集中。書き始めると夢中になる性格で、執筆期間中は、家族も異常に気遣うほどだったとか。

「皆さんに分かりやすく楽しんでいただけるストーリーに仕上げています」と伊澤さん。「ありがたいことに、次は、おらほの地区の話を書いてほしいと、リクエストをしてもらえるようにもなりました」と、利府町内にはまだまだ伝えたいことがたくさんあるのだと目を輝かせます。

町の文化を伝える町民劇団として

今年7月には、待望の文化交流センターリフノスが開館しました。利府町というとスポーツ振興のイメージが強いですが、これからは文化面でも他に負けない活動を展開したいと期待を寄せます。また、「馬の背お伽草子」の公演を観たあと、実際に馬の背を訪れ、その景色の素晴らしさに感激したというお客様もいらっしゃいました。町内の歴史や伝承話をていねいに伝えるありのみの芝居は、利府町の観光をPRをする方法としても相性が良いのかもしれません。

次回作はどんなお芝居にしようか。伊澤さんの頭の中で、芝居の構想は縦横無尽に広がっていきます。今年の公演は、新設されたリフノスを会場に、町民劇団ありのみは、どんな芝居を繰り広げるのでしょう。ぜひとも、お見逃しのないようご覧ください。

取材・執筆　葛西淳子

-団体の情報　利府町民劇団ありのみ

利府町公民館　tel:022-356-2125

「ありのみ」は、1996年「十符の里21世紀プロジェクト塾」の受講生有志が、演劇を通して利府の特徴を生かしたまちづくりを進めるため発足。劇団運営から舞台公演まで、すべて町民が手作りする住民参加型。劇団名は、特産品の「梨」が「無し」に通じて縁起が悪いので、「有りの実」と呼ぶことに由来している。

●伊澤美樹さん　作・演出の上演作品

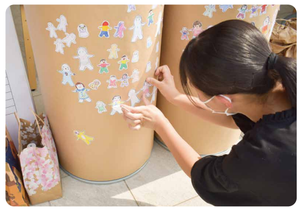
2017　第21回公演「番ヶ森物語」-みちのくの辻、ここにあり-
2018　第22回公演「浜田・馬の背お伽草子」…あなたはすぐに停船されたい…
2019　第23回公演　宿場町利府街道伝 第三話 人情時代劇「椿屋の女房」
2021　第24回公演「長根怪道 百鬼夜行」利府街道伝第五話 道珍坊温泉の巻

利府町で活躍する事業家を毎号紹介していきます

十符（とふ）とは？ …… 昔、利府町の湿地帯には、良質な菅（スゲ）草が自生し、「菅薦（スガコモ）」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅薦の編み目が 10 編あることから「十符の菅薦」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十（と）が利（と）に、符が府に変わったと言われています。

【 一人ひとりができること フードドライブ「みんなのマルシェ」 】

レポーター　tsumikiスタッフ 渡邊木花（宮城大学事業構想学群1年）



見えていなかった社会課題に気づく

皆さんは、tsumiki館内にフードボックスが常設されているのをご存じでしょうか。家庭や職場で余分になってしまった賞味期限の切れていない食糧を集めるドラム型のボックスです。tsumikiでは2019年度から、ふうどばんく東北AGAIN、イオンモール利府店と連携し、利府町でフードドライブ活動に取り組んできました。食をとおして、貧困や生活困窮者の方々へ食糧を届ける活動があることを、多くの方々に知ってもらい、支援を必要としている方のもとへ食糧や情報を届けることを目的とした活動です。

人と人とがつながって、誰かの役にたつ

そんなおり6月13日（日）に、ふうどばんく東北AGAIN主催「みんなのマルシェ」が開催され、tsumikiの取り組みを発表する機会を得ました。そこで自分が寄附する食糧が、何人の命をつないでいるのかが分かるように、フードボックスに人型のシールを貼り、デコレーションするワークショップを行いました。

人が生きるために必要な1週間分の食料の重さは7～8kg。1食分は約300gになります。シールには、幼稚園の子から大人まで思い思いに絵やメッセージを書いてもらいました。参加した親子に人型のシール1つ分は一人分の命につながることを説明すると「ひとりのいのちをたすけたんだって！すごいね！」とよろこんでくれました。支援する人と支援される人がつながったように感じてとてもうれしくなりました。

一人ひとりにできることが、広がっています

tsumikiブースには、この日一日で、なんと99,300gもの食糧が集まりました。フードドライブの取り組みが広く皆さんに知られ、いつでもどこでも気軽に関わることができる活動になってほしいと思います。今回のワークショップでカラフルに変身を遂げたフードボックスは、イオンモール新利府南館に設置されることになりました。ワークショップの参加者29人が、331人の命に思いをつなげた足跡をぜひご覧ください。

INFORMATION

「もったいない」を「ありがとう」の笑顔に

フードドライブ

「フードボックス」へ寄付された食糧を福祉施設、生活困窮者の方、その他連携団体へ無償でお届けしている活動です。みなさんもぜひご協力お願いいたします。

利府町でのフードボックス設置場所

- tsumiki 館内
- イオンモール新利府南館 1F シネマ東入口

寄付できるもの

- 賞味期限、消費期限が１ヶ月以上、未開封のものに限ります。
- 穀類（お米、麺類、小麦粉など）／調味料（みそ、醤油、マヨネーズなど）／保存食品（缶詰、瓶詰など）、お菓子類／インスタント食品、レトルト食品／のり、お茶漬け、ふりかけ／ジュース、お茶、コーヒー、紅茶、その他飲料／贈答品／粉ミルク、離乳食　など
- アルコール類、自家製品（漬物など）は受付ていません。

利府町図書館 × tsumiki 企画展示 「おらほの町 利府」開催！

利府町文化交流センター「リフノス」が、7月1日にオープンしました。利府町の新しい文化活動の拠点として、図書館、公民館、文化会館3つの施設が入った複合センターです。
新しい図書館は、蔵書数が約9万冊に増え、今までの4倍の広さとなった館内には、いろいろな企画展示ができるスペースも設けられています。
7月からは、「おらほの町　利府」の企画展示がはじまりました。
熊谷大町長、櫻井やえ子副町長、本明陽一教育長のお薦め寄贈本の展示とあわせて、図書館とtsumikiが連携し、利府町内で活躍する人々の推薦図書や関連図書を紹介します。「ひと」と「ほん」をとおして、おらほの町の魅力を発信していきますのでおたのしみに。なお展示図書は、図書館で貸出しています。

7月1日 オープン ほやほや！

展示

企画展示「おらほの町 利府」
2021年7月1日（木）～12月26日（日）

［会　場］利府町図書館内 展示スペース
［問合せ］利府町森郷字新椎の木 31 番地の1　Tel：022-353-5031

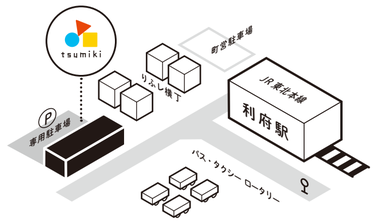
左●tsumikiを紹介する情報誌「つみきのキモチ」、書籍tsumiki book「新・生業をつくる」　中●利府町在住の陶芸家 熊谷苑子（nocolier）さんの作品。日々の暮らしがちょっと楽しくなる作品や梨をイメージした作品が人気。　右●吉川一利（地域おこし協力隊）さんが制作販売している梨グッズの数々と、梨の栽培や農業に関する図書。

tsumiki
利府町まち・ひと・しごと創造ステーション

利用時間
9:30-17:30
（水・金曜日は21:00まで開館）

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央 1-5-2
TEL　022-766-9231
FAX　022-766-9232
Email　info@rifu-tsumiki.jp



設置者　利府町（商工観光課シティセールス係）

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。起業・創業や「利府ならでは」のシティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。

管理運営（業務委託者）　一般社団法人Granny Rideto

Granny Rideto（エスペラント語）は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意志が込められています。

公式ウェブサイト
rifu-tsumiki.jp

Twitter
@rifu_tsumiki

Facebook
〈tsumiki〉で検索

Instagram
@rifu_tsumiki

「つみきのキモチ」は、利府町内を中心に隣接する市町村の公共施設、カフェ、店舗などで配布しています。

つみきのキモチ vol.15　発行日●2021年8月2日　発行●利府町　企画●一般社団法人Granny Rideto
編集●葛西淳子・五十嵐千晶・桃生和成（一般社団法人Granny Rideto）　デザイン●伊瀬谷美貴（interagire）